

# 意匠実務の 「デジタル・ ブループリント」

生成AIがもたらすパラダイムシフトと、  
2026年法改正に向けた知財防衛策

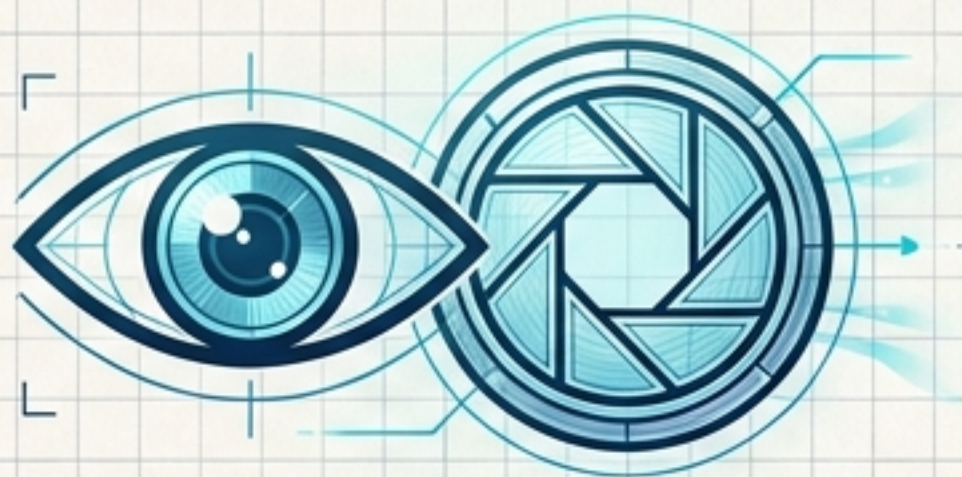


## The Shift (パラダイムの移行)



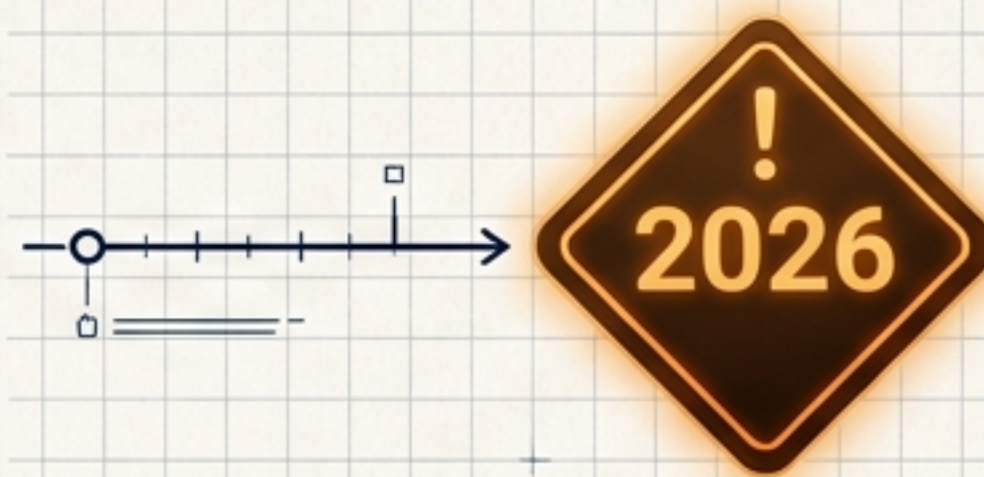
特許明細書（言語情報）のAI化から、意匠（視覚・美感）のAI化へ本格移行。

## The Capability (技術的到達点)



画像生成AI（Midjourney等）や最新モデル（Gemini 3 Pro等）による、概念の可視化と図面化支援の実用化。

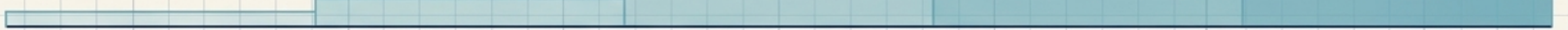
## The Horizon (制度的転換点)



特許庁・意匠制度小委員会における議論の本格化。2026年の法改正に向けたカウントダウン。

本資料は、生成AIの「技術的ポテンシャル」と「法的・実務的リスク」の境界線を解剖し、次世代の知財戦略を設計するためのガイドである。

AI導入度



AI: コンセプト可視化、視覚的類似検索

創作・先行調査

Risk: 新規性喪失  
(先回り大量生成)

AI: 六面図補助、3Dレンダリング

図面・写真作成  
(Core)

Risk: 正投影図法の精度、ハルシネーション

AI: 物品名提案、意匠説明文初稿

願書・記載

Risk: 創作者認定  
(自然人のみ)

AI: 引用意匠との相違点抽出

中間処理  
(OA)

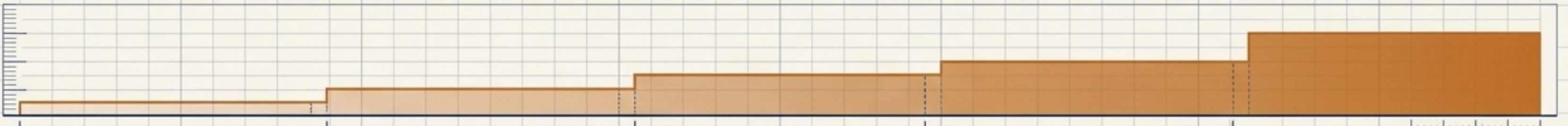
Risk: 要旨変更の厳格な禁止

AI: 自動入力、期限アラート

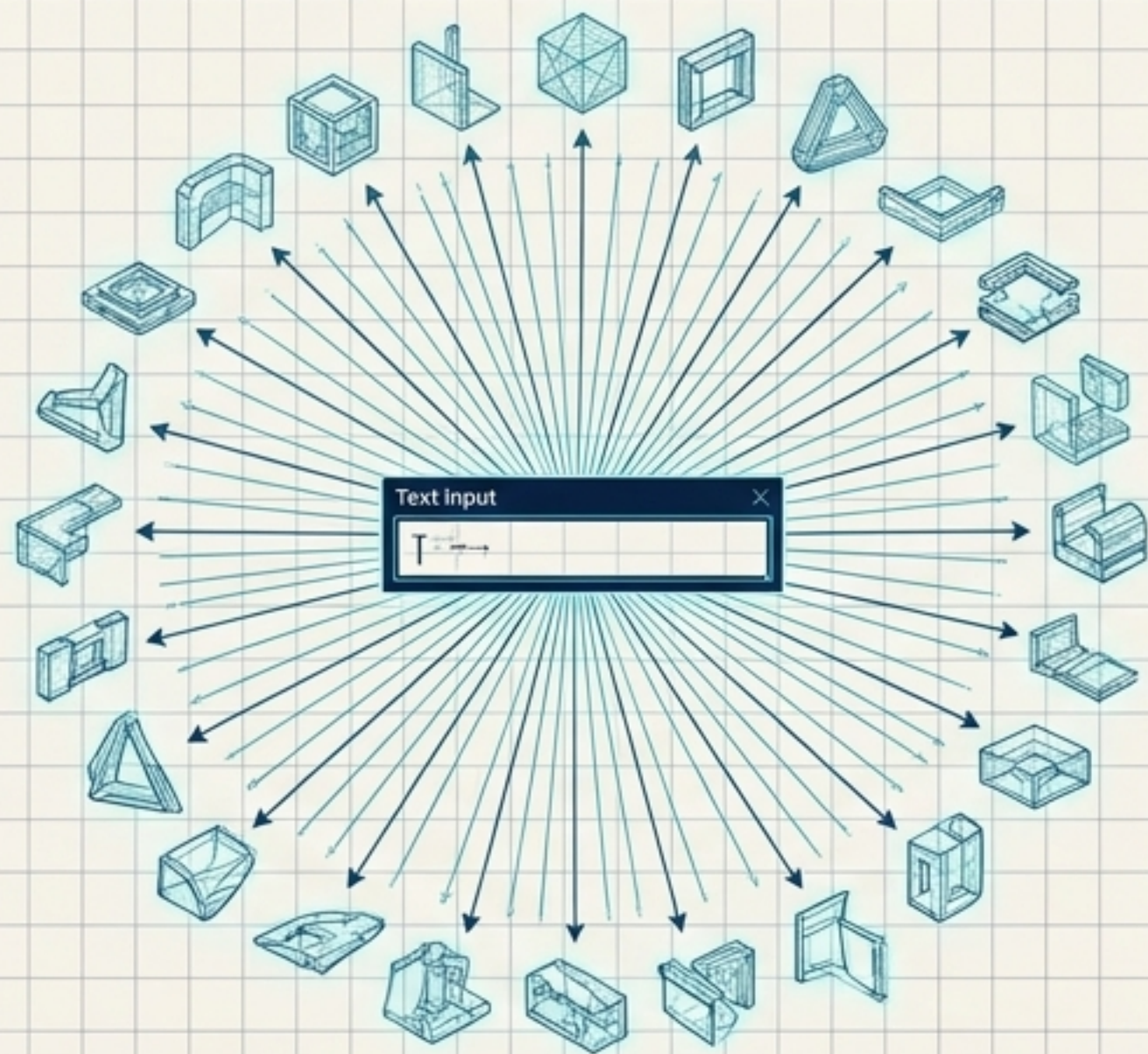
権利管理

Risk: 多国間制度の複雑性

リスク度

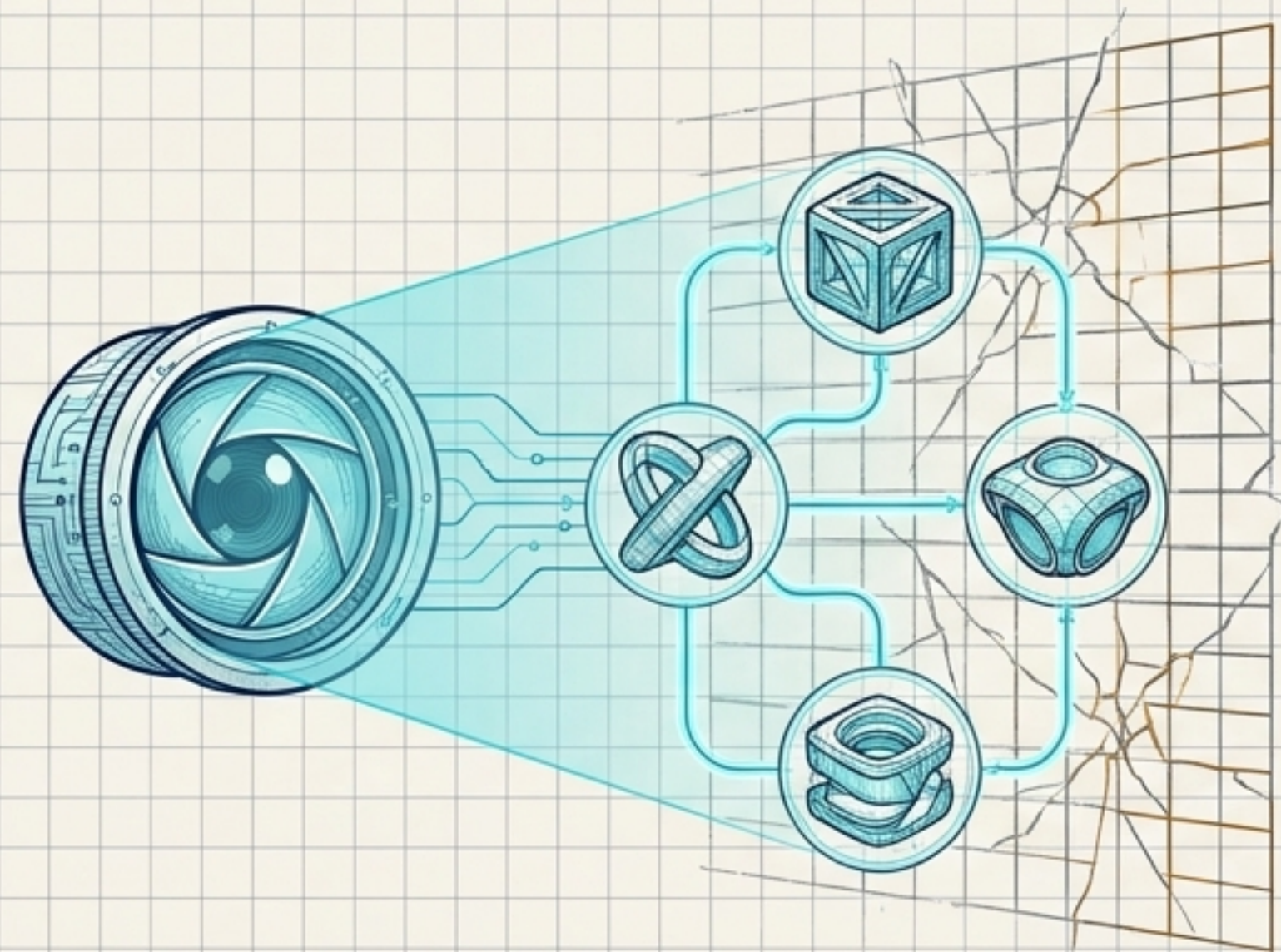


## Design Conceptualization (創作段階)



テキストから超高速にデザインバリエーションを生成。出願候補の絞り込みを劇的に効率化。

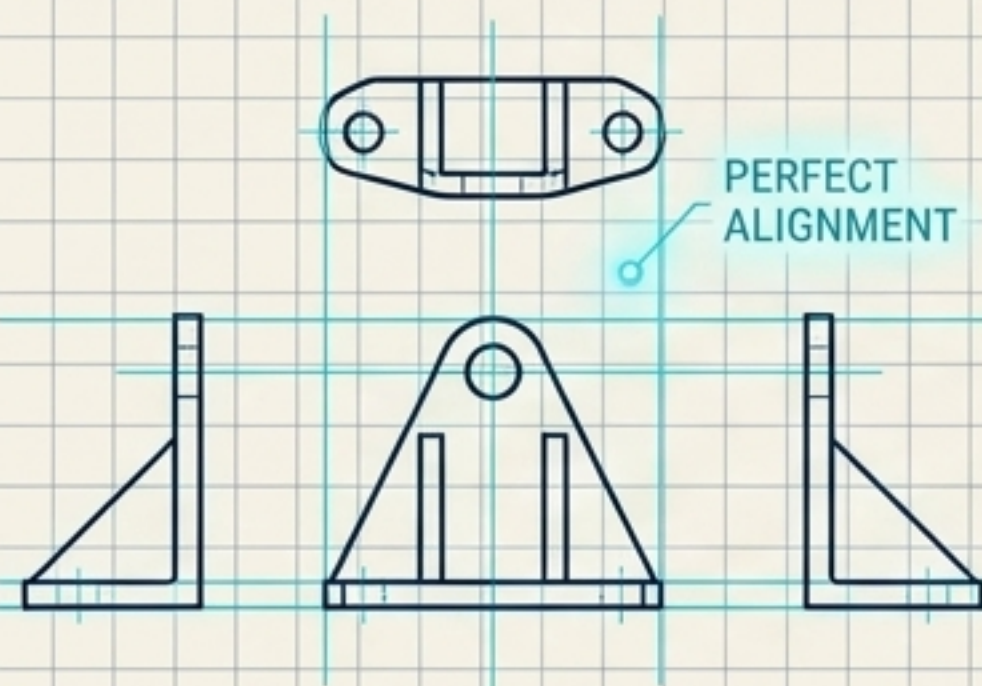
## Semantic Visual Search (先行調査段階)



分類コード依存からの脱却。USPTOが2025年7月に公開した「DesignVision」に代表される、意味論的な視覚探索 (Semantic Visual Search) の台頭。

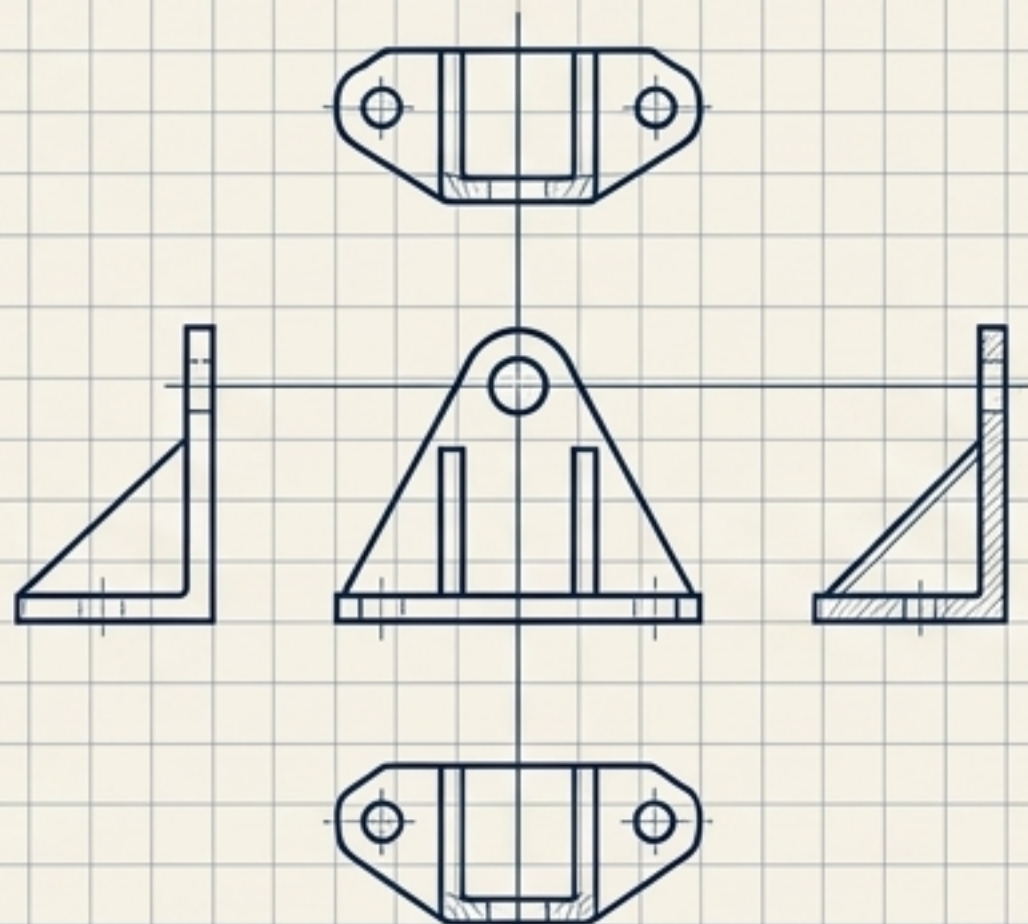
# 図面・写真作成における最大の壁：正投影法とハルシネーション

## 人間のCAD設計

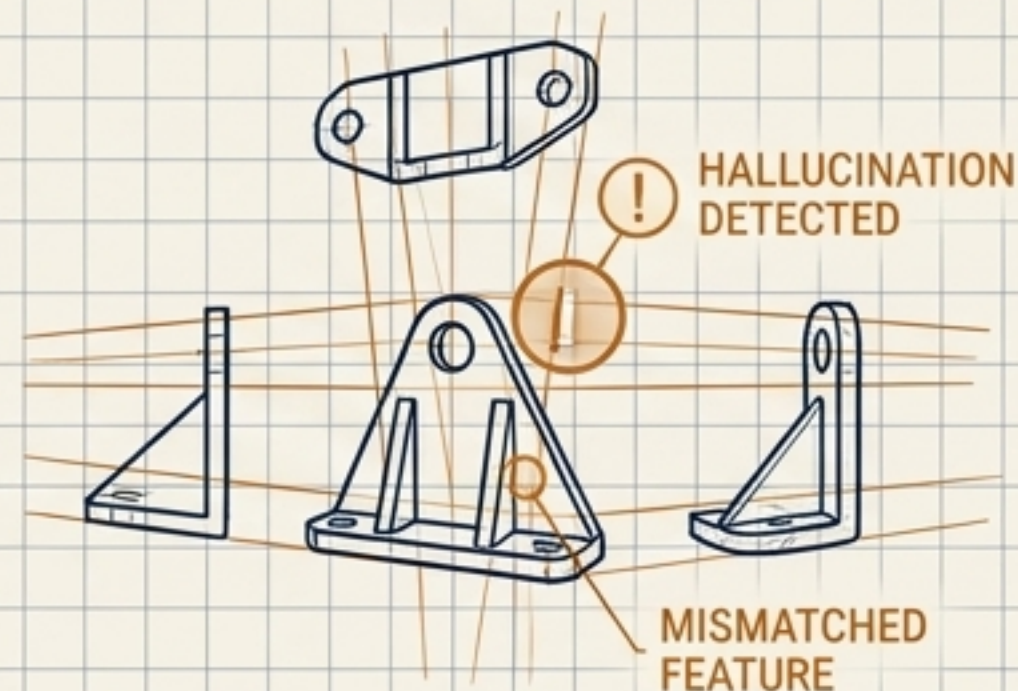


正投影図法 (Orthographic Projection) による完全な寸法・形状の整合性。特許庁の厳格な要件をクリア。

## 六面図



## AI生成の限界



ハルシネーションと遠近感 (Perspective) の混入。オブジェクトの一貫性は向上したが、依然として微細な矛盾が発生。



### [KIPO Data Highlight]

韓国特許庁の調査によれば、意匠出願における最多の拒絶理由は「図面および意匠の不一致」。AI生成画像の「そのまま出願」は致命的リスクを伴う。最終的な人間 (CAD) による修正が不可欠。

# 願書

## [意匠に係る物品]

LLMが仕様書から最適な特許庁区分を自動推論 (効率化ポイント)

## [意匠の説明]

LLMによる初稿生成。図面との矛盾や、不要な限定による権利範囲の縮小リスクに注意。

## [創作者]

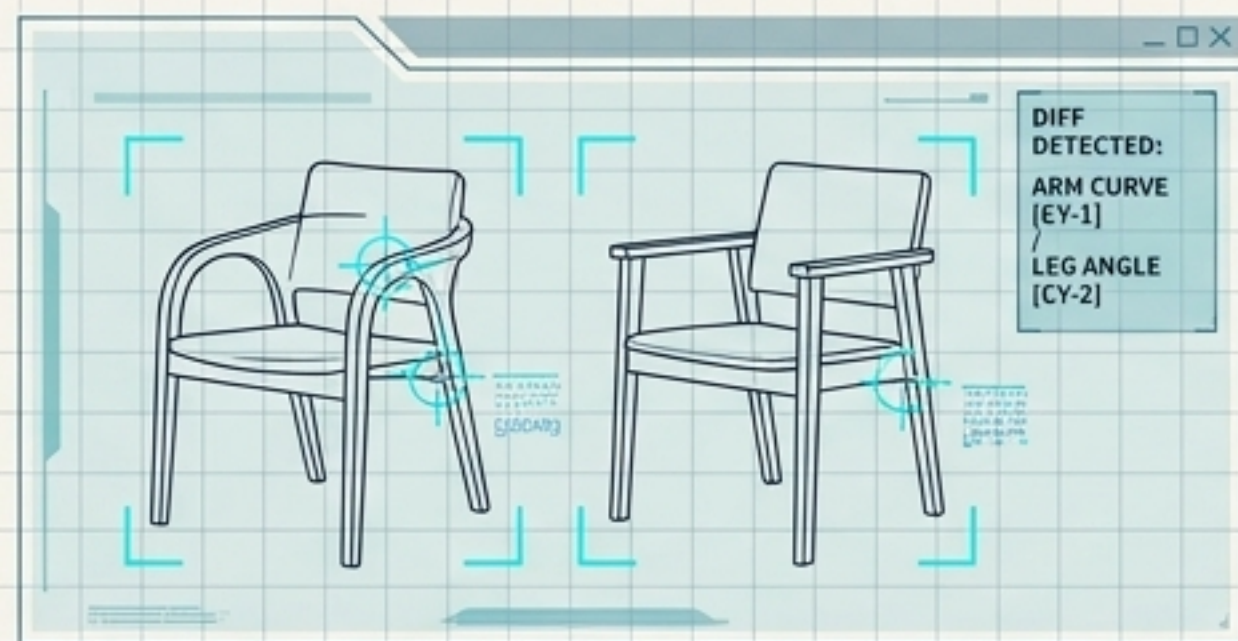
## 法的絶対要件

意匠法上、創作者は「自然人（人間）」でなければならない。

AIを創作者として記載することは不可。

AIを用いた場合でも、正当な権利者（自然人）を創作者として認定するための「人間の関与」の証明が必要。

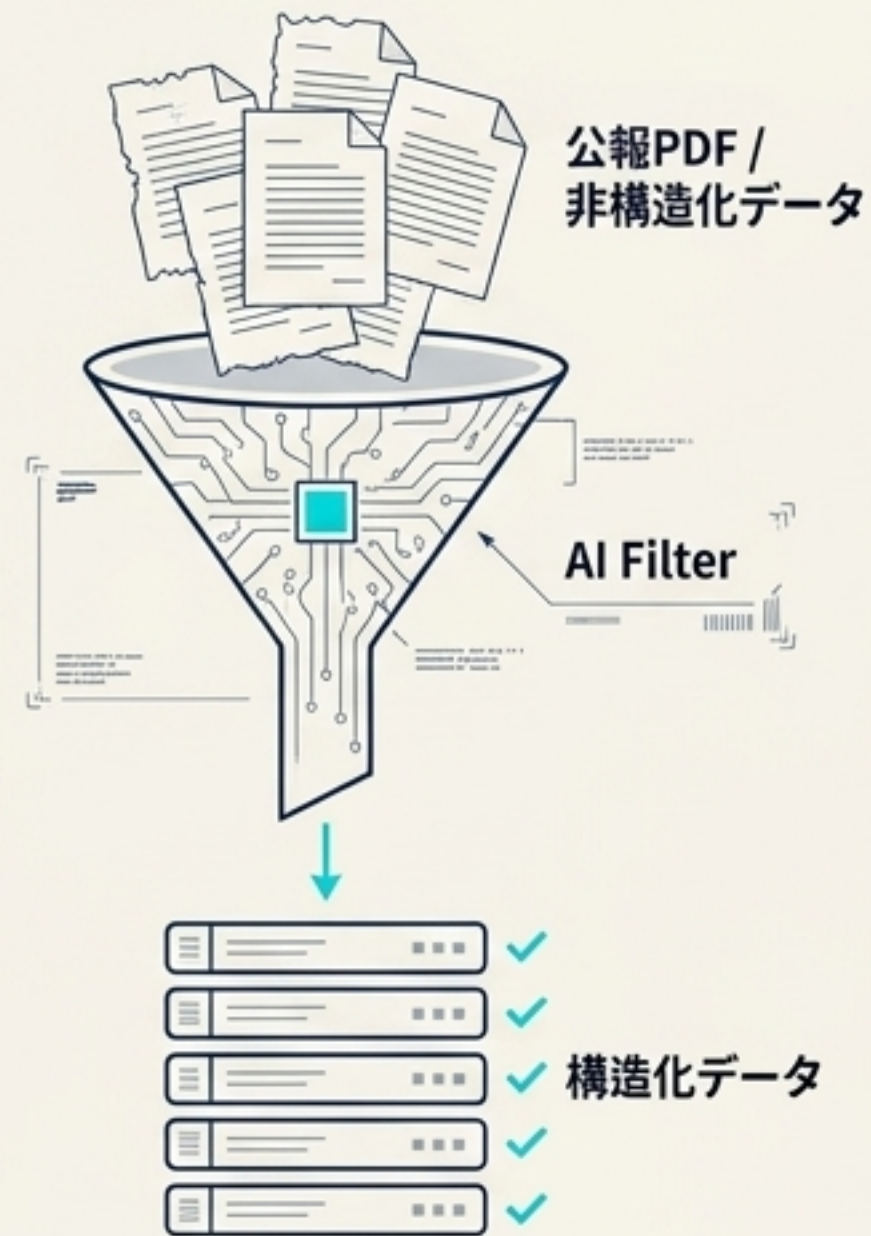
# The AI Capability (相違点抽出機能)



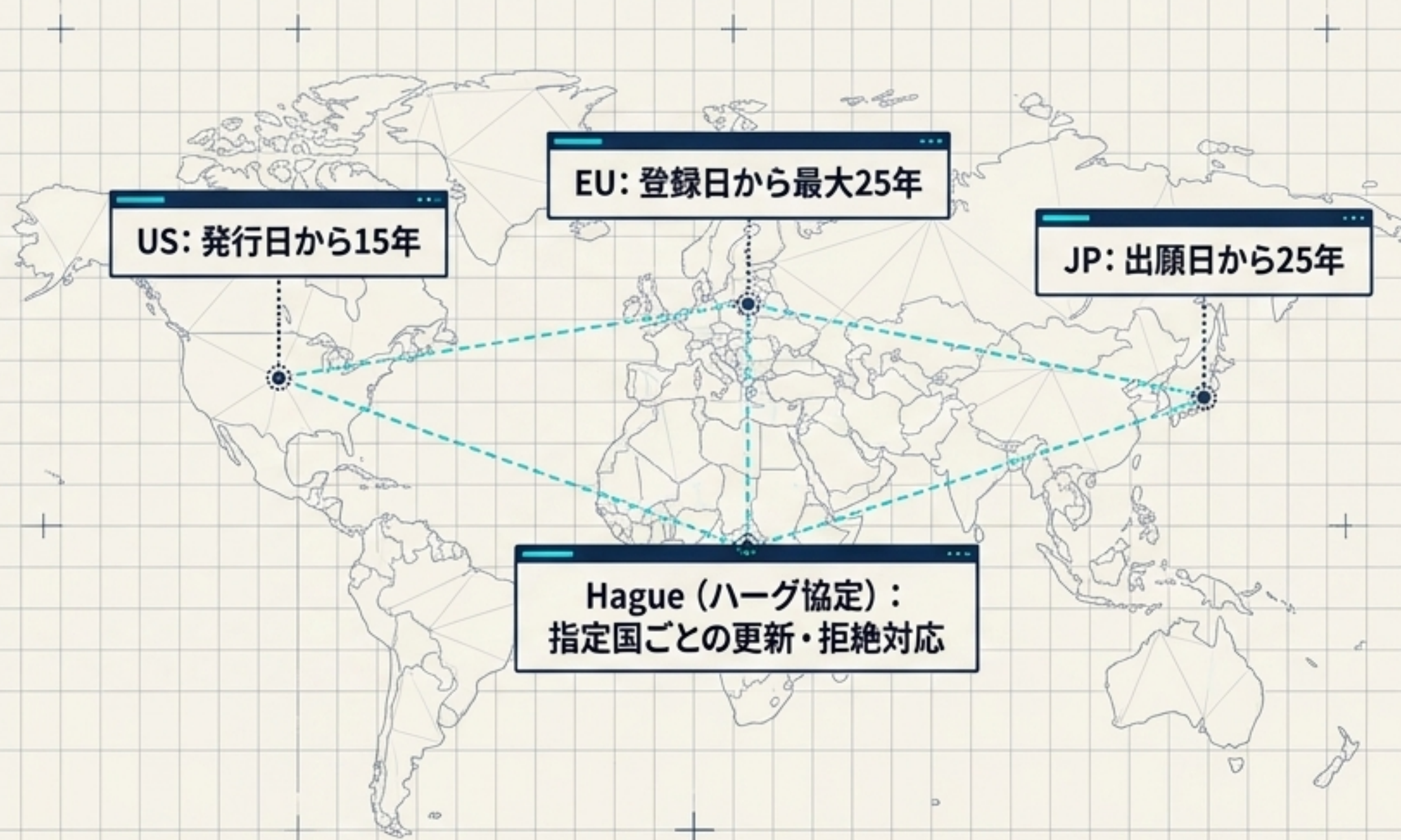
意匠法第17条の2  
(要旨変更の禁止)

マルチモーダルAIが、引用意匠との「共通点」と「相違点」を言語化。意見書における非類似の論証ドラフト作成を強力に支援。

拒絶理由回避のための「図面の微修正」が、意匠全体の美感を変える「要旨変更」に該当するかの判断は極めて高度。AIには視覚的変更の法的評価が難しく、最終判断は専門家に委ねられる。



AIシステムによる、書誌事項（出願番号、登録日、更新期限）の自動抽出と入力工数の削減。



各国の法改正や運用変更をAIが継続的に学習し、正確なアラートを発出できるかが管理システムの信頼性を左右する。

# The AI-Human Race Condition (AIと人間の競争状態)

## 正規の開発者 - 人間



デザイン構想



CADモデリング

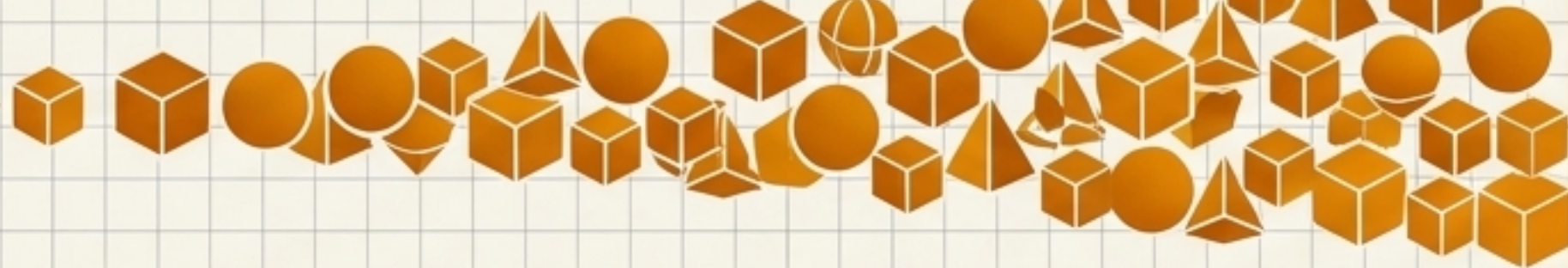


出願書類作成

3ヶ月経過...

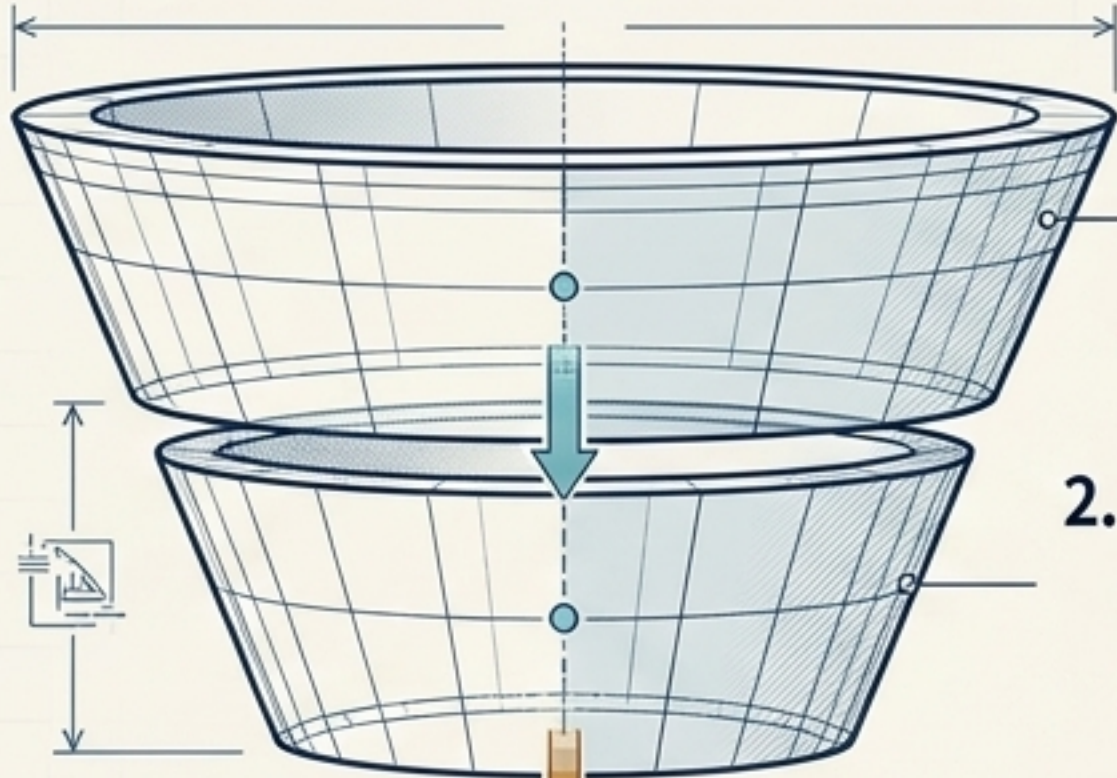
新規性喪失の壁

## 悪意ある第三者 - AI



3秒で完了...

意匠法第3条第1項第1・2号の壁。真の創作者が出願する前に、AIによる類似デザインが公知となり、正規の意匠権取得がブロックされる致命的リスク。



1. プロンプト入力 (Prompt)  
単なるアイデア出し (AI主体)

2. 生成と反復  
(Generation & Iteration)  
試行錯誤の過程

人間の創作的関与の境界線  
(The Human Element)

3. 選択と評価 (Selection)  
意図に沿った結果の選別

4. 加筆・修正 (Refinement & CAD)  
人間による形状の確定・調整 (人間主体)

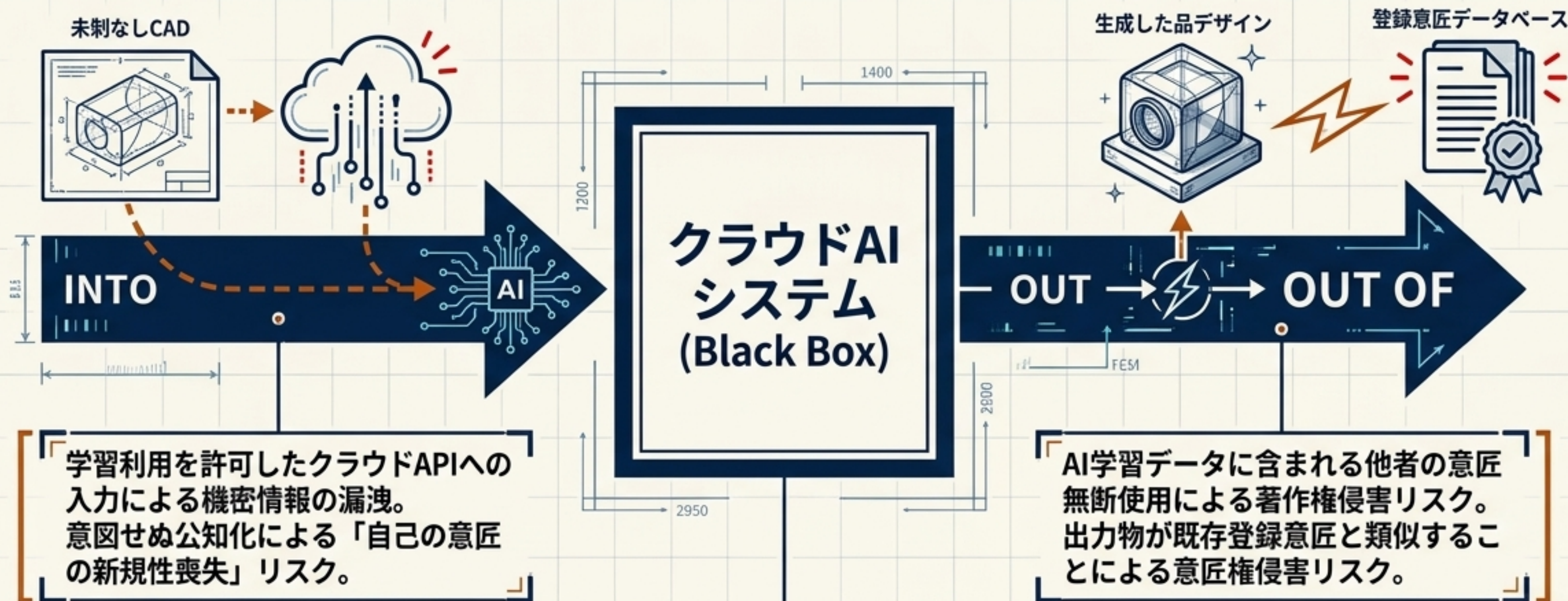
Legal Context

米国USPTOのAI支援発明ガイダンスに基づく「人間の重要な貢献 (Significant Contribution)」の必要性。

Actionable Insight

単に生成しただけでは意匠権は発生しない。  
「どこに人間が創作的判断を下したか」を示す証跡 (ログ) の保管が実務上の絶対条件。

# クラウドAI利用における双方向リスク



## Mitigation (防衛策)

オンプレミスAIの活用

オプトアウト契約の徹底

出力後のクリアランス調査

項目	日本 (JP)	米国 (US)	欧州 (EU)	中国 (CN)
AI単独生成の保護	保護対象外 (不可)	意匠特許不可	保護対象外	一定条件下で検討中 (特異点)
人間の関与の要否	創作的関与が必要	「重要な貢献」が必須	人間の創作性が必要	議論中
現在のステータス	2026年法改正へ向け小委員会で検討中	AI支援発明ガイダンス整備、DesignVision公開	EU AI法成立に伴うEUIPOの制度整備途上	CNIPAによる審査効率化推進

グローバルなコンセンサス = 完全自律AIは保護しない。人間の介在 (Human-in-the-loop) が権利保護の絶対条件。

# AI生成デザインの法的防衛戦略 (Legal Defense Strategies for AI-Generated Designs)



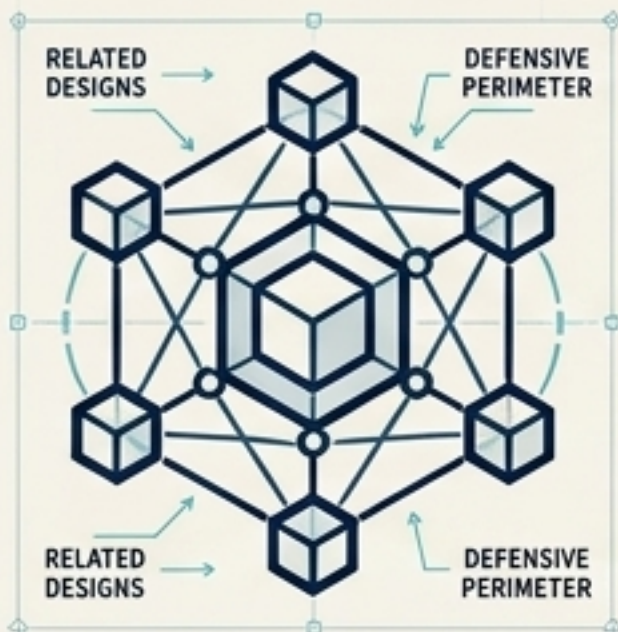
## 証跡の確保 (Audit Trail)

プロンプト履歴、生成画像、選択・修正過程のログ管理体制構築。「人間の関与」の立証基盤。



## 早期出願・秘密意匠 (Preemptive Filing)

先回り大量生成への対抗。漏洩前の最速出願と、「秘密意匠制度（第14条）」による製品発売前の権利保全。



## 関連意匠の網羅的活用 (Network Defense)

本意匠に類似するバリエーションを「関連意匠」として同時出願。AIの大量生成に対し「面」で権利範囲を確保する防衛網。



## セキュアな環境構築 (Data Security)

入力データの学習利用を禁止したエンタープライズAIの導入。社内利用規程（ガイドライン）の厳格化。

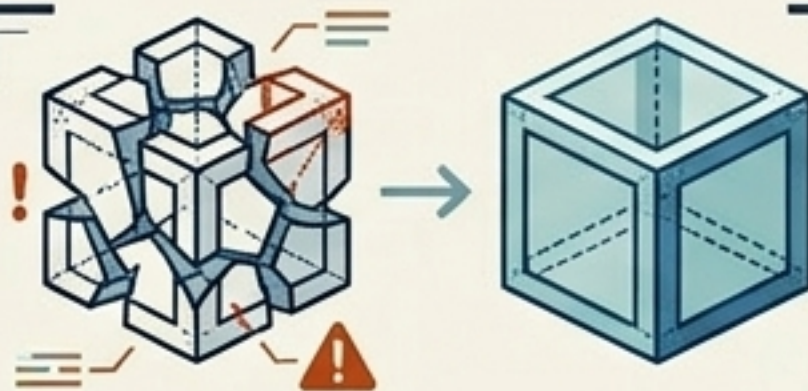
## The Legal Horizon (法制度のアップデート)



特許庁による2026年通常国への法改正案提出。AI生成意匠の新規性判断の特例、AI利用の開示義務、創作者認定基準の明確化。

2026

## The Technical Horizon (技術のアップデート)



3D一貫性生成と物理ベースレンダリングの実用化。図面作成の「ハルシネーション（矛盾）」問題の技術的解消への期待。

## The Technical Horizon (技術のアップデート)

**Key Insight:** 技術が「完全な六面図」を自動生成できるようになった時こそ、法的な「人間の創作性の証明」がより厳格に問われるパラドックス。

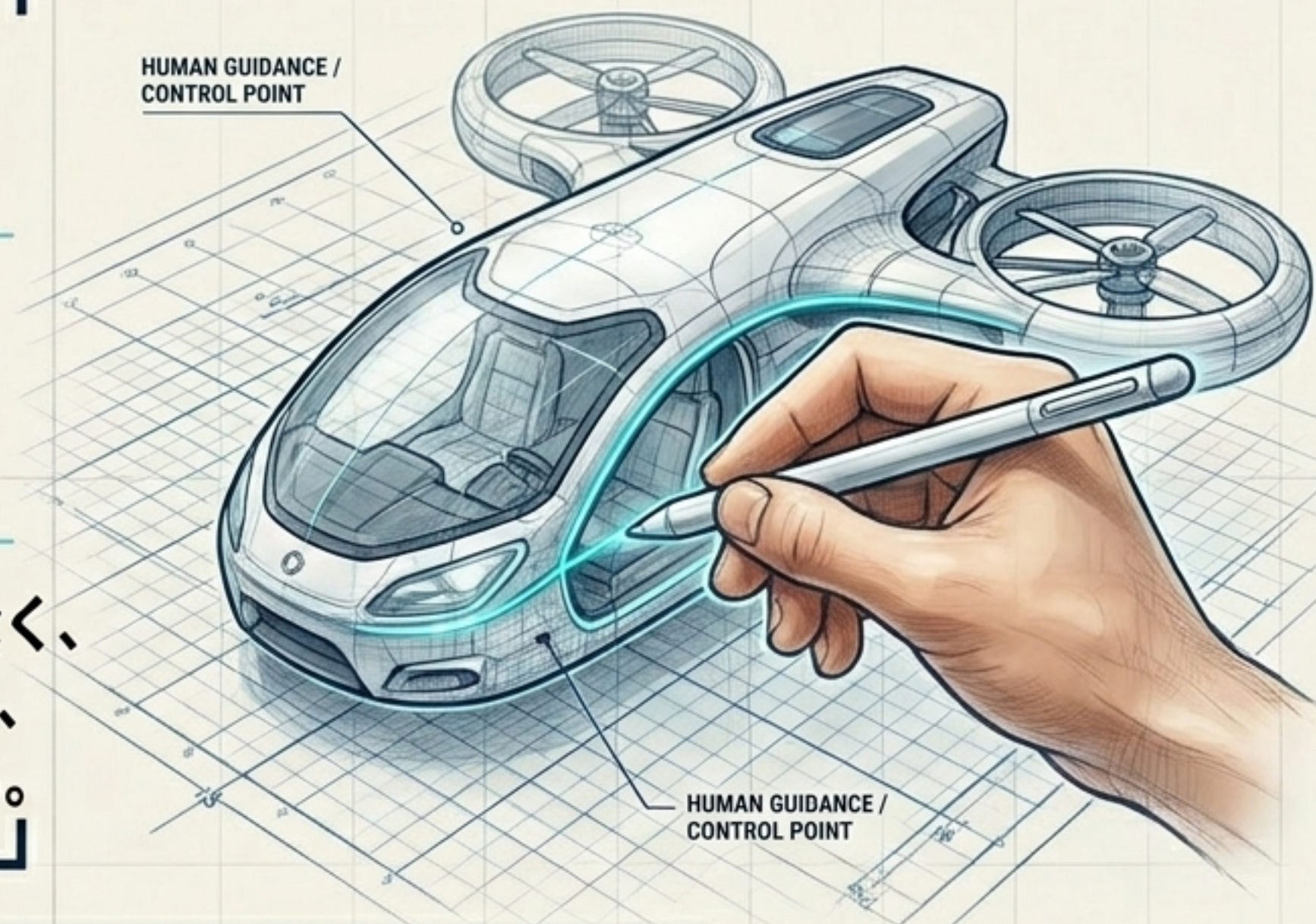
# AIは「自律的創作者」ではなく、「高度なアシスタント」である。

生成AIは、アイデアの可視化から権利管理まで、意匠IPライフサイクルに不可逆な変革をもたらした。

しかし、厳格な図面要件、要旨変更の判断、そして「創作の主体」は、依然として人間の専門性に依存している。

我々に求められるのは、AIへの「丸投げ」ではなく、人間の創造性を拡張する「協働モデル」の確立と、制度変化を先読みした防衛的IP戦略の実行である。

次の時代の意匠権は、  
AIを最も精緻に制御した者が手にする。



[End of Deck]

[Created for: Corporate IP Teams,  
Patent Attorneys, and Designers]